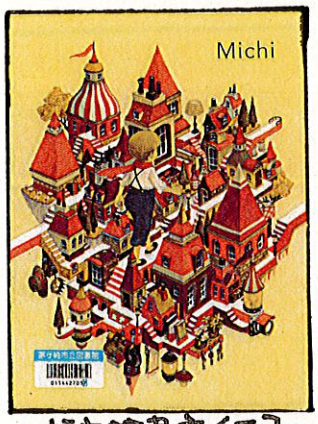
中学・高校生～

2019年6月　no.71

よんでネット＊2019 夏号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会



福音館書店〔E〕

「Michi（みち）」　junaida

Michi－みち，道，途，路，径，未知・・・こちらの扉からは男の子がねこと一緒に。反対の扉からは女の子がいぬと一緒に，はるか先へと続いていくみちを歩いていきます。このみちは，どんな世界に続いているのでしょうか。見開くたびに不思議な世界がひろがります。二人はどこであえるのでしょうか？

****

「母が作ってくれたすごろく　ジャワ島，日本軍抑留所（よくりゅうじょ）での子ども時代」

アネ＝ルト・ウェルトハイム文　長山さき訳

第二次大戦中，オランダが植民地支配していたインドネシアを，日本軍が占領した。当時8歳だったオランダ人の作者は，日本軍の抑留所にいた時，母がていねいに作ってくれたすごろくで遊んでいた。この本は，当時使っていた品々や8歳の作者が描いた絵を通して，子どもの目から見た戦争と抑留所生活を語る記録です。

徳間書店〔949ウ〕

****

講談社〔910ウ〕

「命の意味 命のしるし」　上橋菜穂子　斉藤慶輔

この本は，『精霊の守り人』を書いた上橋菜穂子さんと北海道で野生動物専門の獣医をしている斉藤慶輔さんの対談です。上橋さんは『獣の奏者』を書きながら，「人間が野生の動物や自然と共生できるか」という思いを抱き，野生の命の現場にいる斉藤先生と語り合いました。命とは何か，「なぜ」生まれ死んでいくのか，命を全うするとはどういうことか…。

「セカイの空がみえるまち」 工藤純子

中学2年の藤崎空良は、父が失そうしたのは自分のせいだと悩んでいる。そんな空良が同じクラスで、「新大久保」のコリアンタウンに住む高杉翔と仲良くなり、時々遊びに行くようになる。翔のまわりはいろいろな国の人が多く、言葉はきついが、親切でやさしい。日本人からいやがらせをされてもめげない。でも強そうな翔も、母の事で悩んでいたのだ。

講談社〔913ク〕YA

「ぼくたちのP」

にしがきようこ

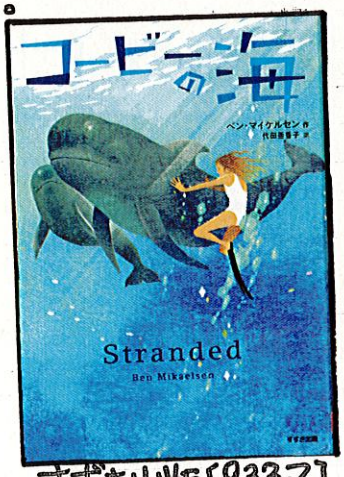
中2の夏休み、雄太はおじさんの別荘に行くことになった。5時間ものきつい山登りの末にたどりついたのは、電気も通っていない山小屋！そこでは、おじさんの教え子の大学生たちが、山の保全活動をしていた。学校ではあまり人と関わらないようにしていた雄太だったが、泥にまみれて楽しそうな大学生の姿にいつしか引き込まれて・・・

小学館〔913ニ〕

「コーヒーの海」

ベン・マイケルセン 作
代田亜香子 訳

8歳のとき、事故で右脚を失ったコーヒーは、4年たっても義足に慣れない。海だけが心安まるところだ。ある日、仲良しのクジラが打ち上げられているのを発見したコーヒーは、寒さもこわさも忘れ、一晩中見守った。その行為に感動した大人達がまを差しのべてくれる。無事にクジラを海へ帰せるか？人々と協力していくうちに、コーヒーは自分の殻から抜け出していく。



すずき出版〔933マ〕